

三浦半島宮陵会だより

発行者: 神奈川大学三浦半島宮陵会 企画・広報委員会
事務局: 鎌倉市津西 1-31-15 Tel: 0467-32-4957

会長挨拶 古川 勝彦



三浦半島宮陵会会長の古川（昭和40年経済卒）です。当地域組織も皆様の支えやご協力のおかげで、早いもので8年目を迎えています。感謝の

一言です。

さて、6月9日の総会には、お忙しい中を会員の皆様やご来賓、会員外の人達にまでご参加をいただき、厚くお礼申し上げます。

第1部の記念講演会では、神奈川大学前学長の中島三千男氏より、「日本人の三つの戦争観」と題して、貴重な含蓄ある講演をしていただきました。

第2部の総会では、今年4月より「一般社団法人神奈川大学宮陵会」への移行に伴い、三浦半島支部の定款等の変更を決議いただき「神奈川大学三浦半島宮陵会」と名称を変更させていただきました。支部長・副支部長の呼称は「会長、副会長」に変更となります。

第3部の懇親会では、会員による玉すだれの実演やクラリネット演奏等のアトラクションで賑々しくなり、会員間の結束力の向上と参加者の交友の輪を拡げることができました。

昨年は「熟慮断行」という言葉を申しあげましたが、今回は「一歩前へ」をキャッチフレーズに掲げ、新生「神奈川大学三浦半島宮陵会」を皆様と一緒に盛り立てていきたいと考えています。どうかよろしく願い申し上げます。

最後に、会員の皆様をはじめ役員の支えに心より感謝しますと共に、どうか引き続き皆様方のご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げます。

平成25年度支部総会を開催

～記念講演会・総会・懇親会～



昭和47年経済卒の嶋田晃です。6月9日（土）午後1時30分より横須賀セントラルホテルにおいて、平成25年度支部総会が

開催されましたので、ご紹介します。

今回の総会では、初めて女性司会者として嶋田順子さんが司会を務め、スムーズに進行しました。

総会に先立ち、第1部は当大学の中島三千男前学長より「日本人の三つの戦争観」と題しての記念講演があり、前学長の研究領域である「日本近代思想史」から、日本人の戦争観、歴史、社会、人間性の変化について等、示唆に富む講演があり、大変好評でした。

引き続き、第2部総会に移り、古川会長の挨拶のあと、総会議長に砂川副支部長が選出され、原事務局長から、平成24年度事業報告・収支決算報告・会則の改正・平成25年度事業計画案・収支予算案等、第1号議案から第5号議案までの議案が提案されました。第3号議案の会則の改正につきましては、「神奈川大学三浦半島宮陵会」への変更が決議されました。慎重な審議の結果、いずれの議案も承認可決されました。

その後、参加者全員の記念撮影が行われました。



参加者全員による記念撮影（H25.6.9 セントラルホテルにて）

懇親会では、古川会長から、神奈川県宮陵会の一般社団法人への移行に伴い、名称、役職の変更がおこなわれた経緯と新たな決意が披露されました。

次に、来賓を代表して、池原治神奈川大学国際センター事務部長から丁寧なご祝辞をいただきました。

乾杯挨拶は宮陵会本部の大場憲治専務理事に行っていました。

その後、懇親に移り、恒例の初参加の方々による自己



紹介では、菅原さん（H23・法）や川名さん（H24・経済）のように20歳代の若い会員の参加もあり、活気に満ちた若さあふ

れる挨拶がありました。

そして、アトラクションとして石井和行さん（S35・法経）の南京玉すだれの巧みな演技が披露され拍手喝采でした。引き続き、吹奏楽OB会会長の田原清彦さん（S49・貿易）からクラリネットで「いそしぎ」等の名曲も披露され、ムードあふれる演奏会となりました。

次に、同好会の代表から活動状況等の報告があり、にぎやかで盛り上がりのある懇親会となりました。

また、地区幹事の大倉国光さん（S38・法律）の中締めの挨拶の後、堀越昌樹さん（S62・法律）の音頭により参加者全員で、元気よく校歌及び応援歌の斉唱をしました。



名司会の嶋田順子さん



南京玉すだれの石井和行さん



クラリネットの名演奏 田原清彦さん



神大コールで楽しい堀越昌樹さん

記念講演

神奈川大学前学長 中島三千男氏

◎プロフィール

1944年福岡県小倉生まれ。1973年京都大学大学院文学研究科国史学専攻博士課程単位取得後退学。

1980年神奈川大学外国語学部助教授、1992年同外国語学部教授、1997年同外国語学部長を経て、2007年神奈川大学学長に就任。本年3月学長任期満了。現在、神奈川大学外国語学部教授。

著書・学術論文：『天皇の代替わりと国民』（青木書店）『戦争と日本人』（「岩波講座 日本通史第20巻 現在I」岩波書店）『概論 日本歴史』（共編著、戦後史担当、吉川弘文館）『明治天皇の大喪と帝国の形成』（「岩波講座 天皇と王権を考える第5 王権と礼儀」岩波書店）『海外神社跡地の景観変容』（御茶ノ水書房）

<講演テーマ> 「日本人の三つの戦争観」



日本近現代思想史(天皇制、国家神道)の研究者である中島三千男前神奈川大学学長が、「日本人の戦争観—三つの戦争観—」と題して記念講演。1945年に敗戦となった戦争について日本には

「①被害者・犠牲者としての戦争観を共通の基盤としながら ②加害者・侵略者としての戦争観と ③自存・自衛、アジアの開放のための戦争観—の3つがせめぎあっている。実際に戦争を経験した人たちが少なくなっているため、①の戦争観は弱くなっている。原爆を投下され、空襲を受けたわが国がそのことに今なおこだわるように、日本の侵略によって害を受け苦しめられたアジアの国々も、その戦争被害にこたえる気持ちは同じだ。自存・自衛、アジアの解放のために闘ったという③の戦争観に私は立たない」と述べた。講演要旨は次の通り。

被害者・犠牲者としての戦争観

日本人の戦争観の根底、岩盤を形作っている。具体的な

根拠は次の通り。①1941年12月8日の真珠湾攻撃から45年8月15日の敗戦にいたるまでの流れ
②「太平洋戦争」と呼ばれる米国との戦争 ③戦中、戦後にたいへんな目にあった経験から、もう二度と戦争は嫌だ（軍隊、国家そのものへの不信）という気持ちになり、憲法9条の戦争の放棄と結びついている ④日本人の犠牲者は、軍人、民間人を合わせて310万人だ。

2. 加害者・侵略者としての戦争観

根拠は次の通り。①1931年9月18日の満州事変から45年8月15日の敗戦までの日本の行動 ②米国だけでなく中国を含めたアジア地域の戦いを重視し「アジア・太平洋戦争」という概念。31年の満州事変、32年の満州国の樹立、37年7月の日中戦争、11月の南京占領、40年9月の北部仏印進駐、41年7月南部仏印進駐、12月8日マレー半島上陸、42年2月シンガポールの英軍降伏、3月ラングーン占領、ジャワのオランダ軍降伏、5月コレヒドール島（マニラ）の米軍降伏 ③アジア全体で2,000万人の死者（中国1,000万人以上、インドネシア400万人など） ④この考えは1980年代以降に市民権を持ち始め、90年代に一旦定着。定着したのは、かつて侵略したアジアの国々への本格的な経済進出を行い真剣に向き合うようになったため。朴政権、蒋介石・蔣経国・国民党政権と続いた台湾の戒厳令解除、スハルト政権、マルコス政権、マハティール政権などの「開発独裁体制」の崩壊。アジアの国・地域における市民の形成と民主化要求により戦後補償運動が起きた。細川、村山両首相の侵略戦争へのお詫び表明。教科書に南京虐殺や朝鮮人・中国人の強制連行の記述などだ。

3. 自存・自衛、アジアの解放のための戦争観

根拠は次の通り。①1941年12月8日～45年8月15日の戦争を「大東亜戦争」と捉える ②40年7月の航空用ガソリンの対日輸出禁止、41年7月の在外日本人の資産凍結、8月の対日石油輸出の全面禁止やABCDライン（米、英、中、蘭）に対抗した40年の日独伊三国同盟の締結 ③欧米列強によるアジアの植民地支配 ④初めて日本（人）が白人支配を打破した ⑤インフラの整備が戦後の経済発展に大きな役割を果たしたなどだ。90年代半ばから市民権を持ち始め2000年に定着した歴史観。定着した理由は（イ）戦前の日本政府の公式な戦争観であったが、戦後必ずしも清算されなかった（ロ）加害者日本の戦争観に対する反動、巻き返し（自虐史観批判）（ハ）01年「創る会」教科書（南京虐殺、強制連行、従軍慰安婦などの記述を後退、削除）が検定通過（ニ）90年以降

の「失われた10年」「失われた20年」で自信喪失、閉塞感の充満（ホ）中国を始め新興国の台頭（ヘ）グローバリゼーション下の（格差で落こぼれた人たちによる）新しいナショナリズムの台頭（ト）ポピュリズム（小泉→民主党→自民党の政権→橋下）の台頭などだ。（原柳作）

総会に出席して 大倉国光（昭和38年法律卒）



神奈川県を卒業して半世紀が経過し、私にとって学生時代の記憶を呼び起こしてくれるのが、総会であります。

私が初めて会員が集う会に出席したのは、平成20年1月の新年賀詞交歓会でありました。新会員として自己紹介したことを思い出します。懇親会におけるアトラクションでは、女子学生が中心のフラメンコチーム、ロスガストの皆さんによる素晴らしいショーが披露され、そのエネルギー溢れる歌と踊りに圧倒されたものでした。またその時偶然に、以前仕事で関わりを持っていた人と出会い、大先輩だと知り、驚きとともにこのような会に親しみを持ちました。

さて、今回の総会ですが、記念講演会は、講師に神奈川県前学長中島三千男先生をお招きして行われ、演題は、日本人の三つの戦争観と題して、明治維新から昭和20年の敗戦に至る大日本帝国の勢力圏の考察、そして今日の日本人の戦争観は、一つ目は被害者・犠牲者としての戦争観、二つ目は加害者・侵略者としての戦争観、そして三つ目は自存・自衛・アジアの解放のための戦争観という三つの戦争観がせめぎ合っている状況にあり、特にアジア諸国と付き合ううえでしっかり認識しておかなければならないこと、その国の歴史や物語、記憶はその国が受けた被害・苦難そしてその克服・脱却が主テーマになるということが熱く語られ、戦争の歴史を考えるうえで認識を新たに、あっという間に時間が経過してしまいました。学生時代は、こんなに真剣に講義を聞いていなかったことに苦笑しながら総会に臨み、議案審議に続いて懇親会に入りました。会員による南京玉すだれの演技に注視し、更に素晴らしいクラリネット演奏に耳を傾け、和気あいあいの雰囲気の中で突然の中締め指名を受け、何を述べたのかは定かではありませんが、参加者全員で校歌を合唱し、

名残りを惜しみながら盛大に終了いたしました。

総会の回数も重ねるごとに、記念講演、アトラクション等充実した内容で、また会員同士の盛り上がりには力強いものを感じました。在学生との交流、近隣他組織との交流も活発化してきており、本会が今以上に広く知れ渡るためにも、この流れが継続していくことが望ましいことではないかと思えます。

さて、私は本会事業活動の一つで会員相互の親睦を深め健康維持向上を図るための「歩こう会」に、昨年末に初めて参加しました。最後は居酒屋で楽しい時間を過ごし、交流の輪が広がりました。歩こう会はいつまでも健康で若さを保てる源になっているように感じたものでした。

今後も本会が益々発展するよう幹事（横須賀）として微力ながら寄与できればと思っております。

一般社団法人化して何が変わったの？ 内藤正久（昭和51年機械卒）



平成25年4月1日より「社団法人宮陵会」は、「一般社団法人神奈川大学宮陵会」として、活動することになりました。一般社団法人になってどう変わるのか、分かり難いと思いますので、概要をご紹介します。

まずは、なぜ一般社団法人化をすることになったのか。次に、地域組織（従来の支部）に関係することや「一般社団法人神奈川大学宮陵会」（以下「本部」という）になって大きく変わった部分をご説明します。

〇経緯と背景について

一般社団法人化するために、本部では様々な規程・規則等の新設や見直しを行ったうえで、平成24年5月26日の宮陵会通常総会で一般社団法人移行の承認をもらいました。平成24年8月1日、神奈川県に移行許可申請を行い、平成24年10月12日には神奈川県公益認定等審議会から「認可基準に適合すると認めるのが相当である」との答申が出され、平成25年3月18日に神奈川県より認可書が交付されました。そして、本年4月1日に一般社団法人への移行登録を行いました。一般社団法人化をするために、このように多くの時間と手間がかかったわけです。

何故このように手間隙をかけて一般社団法人化をしたのか。平成20年12月1日に「公益法人制度改革関連三法」が施行され、平成25年11月30日までの5年間に、「宮陵会を解散するか」「一般社団法人化するか」「公益社団法人化するか」のどれかを選択することになりました。このうち公益社団法人化するには、公益基準に従って公益性の事業は永続的に5割以上という高いハードルがありました。このため、一般社団法人化する選択肢しかなかったわけです。

〇名称について

一般社団法人化により、支部を本部から切り離すことにしました。何故そのようにしたか。本部の中に支部を取り込むと、支部の事業や経理は本部と一体とみなされ、規定された事業報告や計算書類を作成しなければなりません。しかし、本部で支部を含めた書類等を作成することは、現状では不可能ですし、支部に過大な負担を強いることとなります。このため、中身は「支部」と同じ『全国各地で活動する会員組織』にしました。これからは、支部の代わりに「地域組織」と呼ぶこととなります。

当地域組織も本年6月9日の総会で名称を「神奈川大学三浦半島宮陵会」に変更し、支部長の名称を「会長」に、副支部長を「副会長」に変更しました。

〇助成について

名称は変わりましたが、助成金は従来どおり本部から支給されます。これまでどおり、総会の通信費・講師料ほかの支援が受けられます。内容は、「一般社団法人神奈川大学宮陵会地域組織活動助成金取扱規則」で定めています。

〇本部の全体像について（骨子のみ記載）

①会員の種別

正会員（卒業生で会費納入者）・準会員（在学生）・普通会員ほかで組織されます。普通会員は会費を払っていない方や住所不明者等が対象になります。

「地域組織に会費を納めているので、自分は本部の正会員だ。」と勘違いされている方がいますが、本部に会費を納めないと正会員にはなりません。毎年夏に本部から皆さんのお宅へ「会費の納入について（お願い）」という会費納入状況を知らせる通知が郵送されますので、ご確認ください。なお、本部では会費納入状況等をチェックし、毎年4月1日に正会員かどうかを判断いたします。

②代議員、役員（理事・監事）

正会員の中から選挙を行い（H25年度は定数180名に届かず無投票当選）、175名の代議員が選出されました。これからは、毎年6月に開催される定時総会に代議員が出席することになります。また、役員（定数：理事20名・

監事3名)は代議員の中から選挙で選ばれ、本年6月15日の総会で決まりました。任期は代議員、役員とも2年間で、当地域組織からは、代議員5名(古川会長、若林・砂川・内藤の3副会長、原事務局長)と理事2名(古川・内藤)が選出されています。選出された皆さんは、ボランティアの参加者です。

③総会の決議事項

事業計画や予算等は、理事会(役員等で構成)で決定され、総会では、収支決算報告の承認やその他定款ならびに法令に定める事項を決議します。事業報告は報告事項になりました。

④委員会

5つの委員会(総務財政、組織、広報、事業、女性委員会)が設けられました。事業委員会の中に、従来の体育振興委員会が含まれています。

⑤組織(従来の支部)

平成25年4月1日時点で、地域組織86、職域組織25、同期・同好組織34、合計145の組織が活動しています。

以上、概要を説明いたしました。当地域組織での活動は、名称等が変わっただけでこれまでと何ら変わりはありません。ただし、本部の組織や規則、運営方法等は変わりましたので、詳しいことは「神奈川大学宮陵会」のホームページをご覧ください。

<わが地域組織の紹介>

神奈川区宮陵会会長 春原 正三郎



この4月より一般社団法人宮陵会となり、呼称が従来の支部より地域組織に変更されましたが、ここでは旧呼称で記させていただきます。

昨年11月、神奈川区支部長に就任した昭和47年法律卒の春原(すのはら)正三郎と申します。

神奈川区支部は、神奈川大学横浜キャンパスのお膝元にあり、約3,300名と多くの卒業生を抱えています。卒業間もない世代の方々の方々の転居で、住所不明者が多いのも当支部の特色です。転居先を是非本部に知らせてほしいものです。

当支部の歴史は古く、藤沢袈裟利先生(昭和13年高商卒)を中心に活動が始まり、実質的には昨年11月まで永年に亘り支部長として活躍された野道昭三先輩(昭和25年貿易卒)が指導され、脈々と活動してきています。ちなみに、このたび野道先輩は、日頃の支部活動の活躍・貢献が認められ、6月15日の定時総会で功労表彰を受けました。

「活動の1つをあげよ!」と言われるとズバリ、正月恒例の箱根駅伝の応援です。平成22年の第86回大会は残念ながら不出場のため応援できませんでしたが、昭和49年以来18年ぶりの出場となった第68回大会(平成4年)以降、実に21年間応援し続けています。神奈川大学の所在地神奈川区を走る選手を応援しようと、まず、地元六角橋、片倉、大口、東神奈川等の商店街に応援依頼、幟や横断幕等は年末のうちに準備を済ませ、当日それらをトラックで運びます。応援団は、選手諸君を応援する臨戦モードで、東神奈川の交差点に集結します。当初から卒業生とその家族を含め、その数100名は優に超えていました。年ごとに多くの仲間が集まり、現在は200名を超えたでしょうか。連続優勝した当時は、最高の人出でした。しかし、成績に関係なく熱心に集合・応援する姿は何年も変わりません。沿道の神大ファンに二斗樽の振舞酒を用意した時期もありましたが、諸般の事情もあり、菓子パンに変わっていききました。今年神大グッズのボールペンを用意しました。これらは、地元のお年寄りや子供さんに好評です。

ここ数年の応援体制は、以前にも増して拡充してきました。これまでは、神奈川区単独で幟50~70本と横断幕での応援でしたが、そこに大学職員、宮陵会体育振興委員会、現役学生の体育会本部、勝手連的神大愛校会の人たちが、東神奈川から横浜駅東口までを神大プラウドブルーの幟一色にしようと集まりました。2区と9区の選手の応援と神大の応援を構成する人たちの団結を図るために、種々挑戦しております。今年もシード権確保には届きませんでしたが、挑戦は続きます。

三浦半島支部のように活発さはありませんが、総会の出席者は30名を超えるようになりました。昨年11月に役員改選で幹事役員が若返り、増員しました。横浜キャンパスの地元地域組織として恥じぬよう運営していきますので、皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。貴組織の益々の発展と会員の皆様のご健康を祈念申し上げます。

＜特別寄稿＞

「東日本大震災支援事業」

神奈川大学副学長 榎本 誠

会員の皆様は、東日本大震災直後から母校の現役学生が多数ボランティアで被災地支援活動を行っていることはご存じだと思います。このたび、神奈川大学副学長でこの支援事業の責任者、「KU東北ボランティア駅伝」プロジェクトマネージャー（統括）の榎本誠先生から特別に寄稿していただきましたので、ご紹介します。



「KU東北ボランティア駅伝」の活動について

本学の「KU東北ボランティア駅伝」は、震災の直後から本学の学生たちによる被災地支援活動を組織し、大学として全面的なバックアップ体制を取り、この2年数か月の間継続して行われている活動です。

毎週末、木曜日の深夜に横浜を出発し、月曜日の早朝に横浜へ帰着するという、ボランティア便を毎週継続し、昨年度末までで133便、参加学生数約2,200名を超え、参加日数による延数では1万人を超えるという、多くの学生参加を実現してきました。

本学は箱根駅伝での活躍が社会的にも広く知られ、毎週末途切れることなく被災地の支援を継続していくという、この形態を「駅伝」の「襷をつなぐ」という、まさに支援の思いの継承の意味を込めて、「ボランティア駅伝」と銘打ち、文字通り途切れることなくこの2年間支援活動を継続してきました。

被災地に対して大学として出来ることは何か、そして大学生にとってこの未曾有の震災はどんな意味を持つのか。わたしたちは学生たちに震災や津波の被災状況を生で見、感じて、そしてそこから何かを得てほしいと考えました。毎晩の参加学生たちのミーティングでは、彼らは彼らなりに、真剣になって今後の日本について考え、自分の生き方について深く思いをめぐらせていました。大学の教室やキャンパスの中では得られない経験、そして多くの方々との触れ合いを通して、文字通り大きく変化を遂げる学生たちがそこに居ます。

これまで岩手県遠野市（法学部OB本田敏秋市長）を拠点に継続してきた被災地支援活動ですが、遠野市の後方支援活動の規模縮小に伴い、今年度4月からは「奇跡の一本松」で知られる陸前高田市にその活動の拠点を移し、現地のNPO法人P@CTとの提携に基づいて、ハードボランティアと子ども支援の2本立ての内容で行われています。ハードボランティアについては、繁忙期には水揚げされた帆立の殻むきや昆布の仕分けなどの漁業支援、側溝や農業用水路に埋まったままの泥の掻き出し、瓦礫撤去後の空き地の草取りなどに参加します。子ども支援活動は、週末に各地区の「みちくさルーム」と呼ばれる拠点で、集まってくる子どもたちと遊んだり、イベントを行ったりして、震災や津波で肉親を失い、悲惨な光景を目の当りにして傷ついている子どもたちの心の傷が、少しでも癒されることを願って活動しています。

8月末の時点で144便（増便1便）まで活動が続けられ、既に9月中の便まで参加申込者が定員一杯になっています。一日も早い被災地の復興と、同時にこの活動が学生たちの重要な成長の場となることを願い、そして今年も多くの学生たちが参加してくれることを願っています。「繋ぎ続ける、心の襷を 今年も陸前高田へ」

大学の課外活動ニュース

●「第9回ワールドゲームズ」に大島選手がライフセービング日本代表として出場！



本年7月25日から8月4日にコロンビア・カリで開催された「第9回ワールドゲームズ」のライフセービング競技において、大島圭介選手（人間科学2年）が日本代表として出場しました。

ライフセービングとは、本来は人命救助を本旨とした社会活動をさしますが、一般的には、水辺の事故防止のための実践活動のことをいいます。その技術向上を目的として、ワールドゲームズが4年に1度行われます。ワールドゲームズは「第2のオリンピック」ともいわれ、国際的トップアスリート

による総合競技大会です。国際オリンピック委員会（IOC）の後援で、夏季オリンピック競技大会の翌年に開催されています。公式競技数は26で、参加選手は約4,000名の国際大会です。日本からは、15団体112名が参加しました。大島選手の成績は、200m障害物スイムで18位、4×50m障害物スイムリレー（第1泳者）9位、4×50mメドレーリレー（第3泳者）9位でした。更なる活躍を期待しています。

●バトントワリング国際大会に峯野選手が日本代表選手として出場！



本年8月5日から11日にオランダ・アルメシで開催されたバトントワリング競技の国際大会「第7回WBTFインターナショナルカップ」に峯野聖人選手（人間科学3年）が日本代表として出場しました。

出場種目は「スリーバトン（アダルト部門）」で、好成績を収めました。国際舞台での更なる活躍を期待しています。

●平塚軟式野球部が準優勝に輝く！

本年8月10日から14日の5日間、長野県で行われた「第36回全日本大学軟式野球選手権大会」に南関東代表として出場し、堂々の準優勝に輝きました。

決勝戦は長野オリンピックスタジアムで行われ、東北福祉大学（東北代表）と白熱の決勝戦になりましたが、延長10回、残念ながら0-4で悲願の初優勝を逃しました。（これまで過去最高の成績は準優勝）

今回は初優勝を逃してしまいましたが、今後の活躍を期待しています。

●体育会軟式野球部が優勝に輝く！

本年8月26日から29日にかけて、岐阜県長良川球場・関市民球場を中心に開催された「第36回全日本学生軟式野球選手権大会」で優勝しました。

決勝戦では北九州市立大学と対戦し、7対2で快勝、11年ぶり5度目の優勝を成し遂げました。最優秀選手賞は土屋佳吾選手（人間科学部2年）、最優秀投手賞は木村大介選手（経済学部3年）が受賞しました。



平塚軟式野球部の皆さん



体育会軟式野球部の皆さん

●レスリング部阪部選手が銅メダルを獲得！

本年8月20日から23日に東京駒沢体育館で行われた全日本学生選手権で、男子グレコローマンスタイル74Kgで阪部創選手（国際経営2年）が4試合に勝ち、銅メダルを獲得しました。今大会の実績により、12月21日から23日に開催される天皇杯に学生の枠を超えて出場します。ご声援をお願いします。

大学からのお願い

●「就業状況報告書」提出のお願い

就職活動を始める現役学生を支援するための学修進路支援部 就職課からのお願いです。

現役学生は、実際に社会で働く先輩の様々な経験を知りたいと思っています。しかし、日々多忙なOB、OGを訪問して話を聞く機会は、そんなに多くありません。

そこで皆さまに「私は今、こんな仕事をしています」「私の職場はこんな雰囲気です」「社会に出てこんな体験をしました」等、実際に社会人として働いている先輩諸氏からの声を届けてもらいたいということです。母校の後輩のために、現在の仕事の紹介や後輩へのメッセージを「就業状況報告書」に記入して神奈川大学就職課へお送りください。

「就業状況報告書」のフォーマットは神奈川大学のHPから入手できます。記載し郵送していただいた方には、謝礼として500円分の図書カードが大学から送られてきます。

詳しいことは、神奈川大学のHP「卒業生の皆さまへ（一覧）」をクリックすると、「2013.04.19 2013卒業生就職支援登録カード提出のご案内」をご覧ください。皆さまのご協力をお願いします。

「葉山町体育協会会長」に 中川六郎さんが就任



©タコニュース

逗葉地区幹事の中川六郎さん（昭和44年経済卒）が平成25年4月に葉山町の体育協会会長に就任されましたので、ご紹介します。

葉山町体育協会は、葉山町にある20のスポーツ団体を代表し、関連スポーツ組織との協調と連携を推進してスポーツの普及と発展を図り、町民の心身の健全な発達と明るく豊かな生活に寄与することを目的とした団体です。

中川さんは、1年前に前会長から会長職への推薦を受けられたとき、町の体育振興を推し進める舵取り役として、自分よりももっと相応しい人がいるのではないかと固辞されたそうですが、熱心に勧められ就任を決断されました。

「体育振興のために、今までにない楽しいことがやりたい！」という思いから、ポケットに忍ばせたメモ帳には日頃思いついたことを書き留め、常に方法を模索しているとのこと。20団体の代表として、「会員や町民とのコミュニケーションが何よりも重要であり、一人ひとりが意見を出しあっていけば、自ずと将来のスポーツ振興のあり方が見えてくるはず」との信念のもと、常に先を見据えて、そのために今何をすべきかを考えているそうです。

スポーツ振興の世話人として、今後の活躍を期待しています。

スポーツ振興の世話人として、今後の活躍を期待しています。

同好会通信（世話人が紹介します）

●ゴルフ会世話人：中川六郎（昭和44年経済卒）

メールアドレス：nakaroku@jcom.home.ne.jp

連絡先：090-9003-2499



佐藤武氏が初優勝！
第21回宮陵会三浦半島支部オープンゴルフコンペは、7月12日（金）、葉山国際カントリー倶楽部で開催された。

過去最大の7組26名が、9時15分にエメラルドインコースをスタートし、午後はダイヤモンドアウトコースで、新しい宮陵会会長杯争奪戦を戦った。結果は、参加16回目の佐藤武氏の初優勝となった。準優勝は常に上位をキープしている鈴木和夫氏、三位は実力者遠藤寿男氏。ドラコンは奥野氏、ニアピンは石井氏、古川会長、初参加の石川氏。バスクロは41、44で85の塚田氏が獲得。初参加は、吹奏楽部OB田原清彦氏、横浜商科大学前学長久保政治氏、出席予定であった斎藤勁前内閣官房副長官紹介の石川舜氏であった。次回、第22回大会は11月12日鹿野山ゴルフ倶楽部で開催します。



葉山国際カントリー倶楽部にて（H25.7.12）

●テニス会世話人：砂川正夫（昭和44年経済卒）

メールアドレス：m_sunagawa@jcom.home.ne.jp

連絡先：046-852-0521



毎年恒例の同好会によるテニス合宿を8月11～13日に2泊3日で、神大箱根保養所で実施した。例年だと長野県八ヶ岳の富士見高原研修所だが、今回は、近場の箱根仙石原の町営テニスコートを利用

した。参加者は当初の予定人員より少なく予選を勝ち抜いた？古川勝彦（40年経済）、鈴木和夫（46年法律）、塩塚定雄（48年貿易）、砂川正夫の4名が参加。靴の底が抜けるほどの激しいダブルス、シングルス戦。晩には、空のお銚子が並ぶくらい昼夜にわたり熱戦を繰り広げた。

初日、到着して2時間、中日午前2時間練習。午後、箱根の駅伝ゴール地点にある駅伝ミュージアムで来春の出場と上位入賞の祈願を兼ねて見学。最終日は午前最終試合をし、帰りに宮城野温泉会館で草テニス同好会の会員増強と、熱中症にならず全員無事だったことで一献傾け、帰途に就いた。



箱根町営仙石原テニスコートにて (H25.8.11~13)

●歩こう会世話人:若林秀明(昭和39年経済卒)

メールアドレス:w-hideaki@mvd.biglobe.ne.jp

連絡先:090-3220-1479



今年の歩こう会は、前回は鎌倉地区を巡回しましたので、5月から7月にかけて実施するように計画していました。しかし諸般の事情により都合をつける

ことができず、このところ休んでおりますが、年内には実施できるようにしたいと考えております。その節には、皆様お揃いで参加くださるようお願いいたします。

見学する場所は、横須賀地区にしたいと思っております。ご意見がございましたら、ぜひご連絡いただきたく重ねてお願いいたします。

●つり会世話人:清水英樹(昭和56年法律卒)

メールアドレス:Shimih01@kanagawa-u.ac.jp

連絡先:090-2257-0691

ただ今休止中ですので、ご了承ください。

HP(ホームページ)のお願い

<http://miurahanto.blog.shinobi.jp> 塩塚定雄



昭和48年貿易卒の塩塚です。組織名の変更に伴い、ホームページのタイトル(トップページ)を「神奈川大学三浦半島宮陵会」に変更しました。

今回は多くを語りません。私からのお願いは、ホームページを見ていただきたいということです。

アクセス件数があまり増えていません。会員の方には、せめて1か月に1回は見てほしいですね。

前回は紹介させていただきましたが、内藤さんからは毎月、「今月の鳥」と題して四季折々の野鳥の写真と解説が送られてきています。

また、中川さんからは、ゴルフコンペの結果と写真が送られてきます。トップ:掲示板<<お知らせ>>など内容は更新されていますよ。

皆さんも、ご連絡メールを利用して投稿し、ホームページにアクセスしてください。お願いします。

事務局からのお知らせ

新会員のご紹介 (敬称略)

- 篠原 久恒 (昭和40年法卒) 横須賀市鴨居
- 中島 龍彦 (昭和49年法卒) 逗子市久木

箱根駅伝予選会応援のご案内

集合日時:平成25年10月19日(土)8:00
集合場所:JR西立川駅前の国立昭和記念公園入口
(神奈川大学の幟が目印です)

○来年の箱根駅伝は第90回の記念大会のため出場校枠が増え、予選突破校数が13校となります。神大は予選通過の有力校に挙げられています。

平成25年度 ホームカミングデーのご案内

開催時期:平成25年10月20日(日)12:00~14:00
場所:神奈川大学 横浜キャンパス体育館
内容:式典・懇親会
対象:昭和38年3月以前の卒業生、昭和53年・平成5年・平成15年・平成25年3月卒業生、平成15年・平成24年9月卒業生、それ以外の卒業生も参加可能

参加費用:無料

※申込は9月25日で締切られています

平成25年度 新年会開催の予告

開催時期：平成26年2月2日(日) 13:30 開演予定
 場所：横須賀セントラルホテル(京急横須賀中央駅そば)
 内容：講演会・懇親会
 会費：6,000円程度

詳しくは会員向けの通知やHPでご案内いたします

会費納入のお願い



会計を担当しております若林
 (昭和39年経済卒)です。

年会費の振込をお願いします。
 該当者には郵便の「払込取扱
 票」を同封しました。振替手
 数は支部で負担いたします。

◎郵便振替受入口座：久里浜支店 00290-5-95815

神奈川大学三浦半島宮陵会

◎横浜銀行口座：久里浜支店 普通預金 1747984

神奈川大学三浦半島宮陵会

●年会費は年間3千円、4年間前納は1万円です。

※神奈川大学三浦半島宮陵会(地域組織)の活動は、
 年会費で運営しています。宮陵会本部の会費とは異
 なりますので、ご注意ください。

年会費納入状況 (H25.3.5現在)

〔平成26年3月末まで納入済〕

(鎌倉) 川瀬 元夫、石井 和行、若林 秀明、
 古川 勝彦、山岸 一輔
 (逗子) 岸本 光瑞、田原 清彦、中島 龍彦、
 深津 敏夫
 (葉山) 岩澤 正之
 (横須賀) 山内 元式、八嶋 政臣、沖 丞、
 萩原 孝、中山 廣男、南雲 忠男、
 落 勝廣、石井 一男、大倉 国光、
 村田 龍也、菊池 武、篠原 久恒、
 結城 康雄、長谷川征勝、市川 国男、
 金井 昌孝、熊澤 勝喜、福島 康臣、
 島崎 和久、砂川 正夫、森下 守久、

(横須賀) 鈴木 稔、金野 義勝、野村 晴男、
 嶋田 晃、塩塚 定雄、舟崎 学志、
 渡邊 健、内藤 正久、川口 好孝、
 清水 英樹、久根口昭二、工藤 真也
 (三浦) 原 柳作、石渡 大輔

〔平成27年3月末まで納入済〕

(鎌倉) 小澤 光、矢澤 基一、田中 章仁
 (葉山) 中川 六郎、石渡 俊一
 (横須賀) 角谷 彰、稲垣 茂、嶋田 順子、
 石田 泰教、松岡 和行、鳥海 洋義、
 星山 正範、鈴木 康介

〔平成28年3月末まで納入済〕

(鎌倉) 井口 淳
 (逗子) 長澤 良成
 (葉山) 米田 光男、小池 邦夫
 (横須賀) 塚田 尚、奥野 晶洋、久保田宣彦、
 名取美佐男、相原 充、鈴木 和夫、
 伊澤 隆雄、江尻二十三、鈴木 三郎、
 鈴木 伸夫、西脇 幸二、二井美恵子、
 堀越 昌樹、箕輪 義夫、田中 弘
 (三浦) 源代 价克、塩谷 宏之

〔平成29年3月末まで納入済〕

(逗子) 青木 猛
 (横須賀) 轟田 俊秀、武井 利徳、青山 隆一、
 石渡 卓、長島 保雄

合計：85名

～編集後記～

2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定し日本中が湧いていますが、10月1日には、来年4月1日から消費税5%を8%に上げる発表を控えています。期待と不安が入り混じって、世の中は目まぐるしく動いています。そのような中で、神奈川大学は本年創立85周年を迎え、2028年の100周年に向けてハード・ソフトの両面で発展を目指して進んでおります。当組織も名称を変更し、心機一転。卒業生や在校生にとって有意義な組織になるよう役員を中心に日々頭を捻っております。皆さまの積極的な会への参加、助言、協力を求めています。どうかよろしくお願いいたします。(N)